

# 現職教育資料

^  
第  
447  
号  
v

はじめに	1
芳賀青年の家	1
唐沢青年の家	1
烏山青年の家	2
大平少年自然の家	2
高原山少年自然の家	3
那須少年自然の家	3
今市少年自然の家	3
とちぎ海浜自然の家	4
おわりに	4

## 青少年教育施設を生かした体験活動

### はじめに

新しい学習指導要領では、各教科や道徳、特別活動等において様々な体験的な学習が重視され、新設される「総合的な学習の時間」においても、自然体験やボランティア活動などの社会体験、観察・実験、見学や調査、発表や討論、ものづくりや生産活動などの体験的な学習、問題解決的な学習を積極的に取り入れることが求められています。

少年自然の家、青年の家、海浜自然の家などでは、これらの体験的な活動を支援する諸活動を展開しています。

その一例として、栃木県教育委員会では平成12年3月に「応援します。『総合的な学習の時間』」と題した、のびのびホリデー情報を全教員に配布しましたが、再度ここに青少年教育施設での様々な利用の仕方、利用の工夫、利用者の感想等を青少年教育施設利用促進を兼ねて紹介いたします。

### 【芳賀青年の家】

芳賀青年の家では、「総合的な学習の時間」に対応したプログラムの開発を進めている。

#### 1 学習活動の分類

約60種の学習活動を7コースにまとめている。

- 興味・関心(科学遊び、レクリエーション等)
- 自然体験 (ハイキング、木の実の壁掛け等)
- 伝統文化 (かど松づくり、切り絵等)
- 情報 (インターネット、ラジオづくり等)
- 福祉・健康(介護体験、手話体験等)
- 地域学習 (益子焼き、西明寺見学等)
- 生活体験 (奉仕活動、高齢者との交流等)

#### 2 学習活動項目

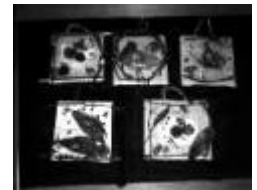
- 準備するもの(軍手等)
- 活動時期(通年・秋等)
- 活動人数
- 活動時間
- 対象者(小・中学生等)

#### 3 学習プログラムの例

- チャレンジ体験

### 自然と友だちになろう

- 樹木観察「高館山、樹木チャンピオン搜索隊」
- 野外炊飯「竹の食器と竹ご飯」



### 手仕事体験

西明寺の七不思議を解こう！

ボランティア体験活動

まるごと益子、一日体験

他校との交流宿泊体験

### 4 今後の予定



今後、各学校と協議しながら、よりよいプログラムの開発を目指したい。なお、芳賀青年の家の「総合的な学習の時間」プログラム集は、本年度中に各小・中学校に配布する予定である。

### 【唐沢青年の家】

豊かな自然と唐沢山城から学ぶ

当所は唐沢山県立自然公園の中ほど、唐沢山山頂の北東(標高約230m)に位置し、藤原秀郷公築城と伝えられる唐沢山城の遺構(北城跡)に建てられている。この豊かな自然と歴史的な環境を生かした当所独自のプログラムから「総合的な学習の時間」として、小・中学生にも学習してほしい内容を紹介する。

#### 1 豊かな自然の中で

東京農工大学F S C唐沢山(附属演習林)を利用、同大学と県佐野林務事務所の協力・支援を得ての森林体験学習。

#### 森林(唐沢山)の生態系

- ・森ができるまで
- ・環境としての森林を考える
- ・針葉樹、広葉樹の一生
- ・杉材を利用して等
- ・植物、キノコ等

森林ボランティア体験

教員の「総合的な学習の時間」指導の準備として「森の公開講座」等

2 歴史的遺産をたずねて

唐沢山神社・地元歴史愛好家の協力・支援を得ての歴史学習。

唐沢山城の歴史

日本の山城・石垣

佐野市(田沼町・葛生町)の歴史等

3 その他

野鳥観察をとおして

食文化を調べよう(そばづくり・ラーメンづくりに挑戦)

自然の素材を生かして等

自然にどっぷりとつかり、そのすばらしさや不便さから課題に気付き、自ら解決しようとする力が育つものとする。

唐沢の森、心も体もリフレッシュ。ゆったりとした気持ちで学習してみませんか！

唐沢青年の家が「総合的な学習の時間」をコーディネートします！

【烏山青年の家】

「総合的な学習の時間」と体験活動

烏山青年の家では、「総合的な学習の時間」に関する指導案や青年の家の利用の仕方をまとめた

『「総合的な学習の時間」関連資料』を作成し、小・中学校や関係諸機関へ配布した。

その中で、「環境」・「福祉」等の体験活動を取り上げているが、「牛乳パックを材料とした紙すきに挑戦しよう！」の展開例は以下のとおり。

活動内容	支援のあり方	備考
1 施設職員から、烏山和紙の歴史や和紙の特徴について説明を聞く。(0.3時間)	・ 職員がパルプ紙と和紙の違いを手触りや利用法の違い等を示して分かりやすく説明する。	・ 資料を職員が用意する。
2 紙すきを行う。 ・ 職員がすき方については説明する。(1時間) ・ グループごとに紙すきを実践する。 ・ アイロンを用いて紙を乾かす。(2時間)	・ 友達と仲良く助け合いながら活動させる。 ・ 和紙向上を事前に見学している場合は、その時の和紙すきの様子を紙すきの活動に活かさせる。 ・ アイロンを使うので安全面について事前に指導する。	・ 紙すきに関する用具説明書はすべて施設で用意する
3 すいた紙で、家族や友人に手紙を書く。(1時間)	・ 官製葉書との違いを鉛筆で字を書く際の違い等から実感させる。	・ 郵便番号や住所は事前に調べさせておく。
4 和紙とパルプ紙の違いや紙すきの感想について、グループでまとまる。(1時間)	・ 和紙、パルプ紙双方の長所、短所や紙すきのおもしろさ等(伝統工業理解)についてまとめさせる。	

当施設は、和紙作りの伝統がある烏山町に立地している関係から、牛乳パックを材料とした紙すきを実践しながら、和紙の歴史や特色についても学ぶことができる。また、学校側が求める「総合的な学習の時間」の目的・内容・成果を事前・事後の活動(打ち合わせ・評価等)を含めて十分に話し合い、各学校の実態に即した効果的な活動を支援している。



今後も、「総合的な学習の時間」に関わる体験学習を積極的に開発し、児童・生徒が地域(青年の家)で学ぶ楽しさを実感できるように努めたい。

【太平少年自然の家】

ゲッタークンの森で総合的な学習を！

太平少年自然の家では、平成12年度に『ゲッタークンの森で総合的な学習を！』という「総合的な学習の時間」に対応したプログラム集を作成した。これは、各学校が創意工夫を生かした特色ある「総合的な学習」を展開していく上で参考となるよう、下記の4テーマと8基本プランを示したものである。なお、テーマは本所の教育目標から設定した。

(本所では、マスコットのゲッタークンにちなんで、「太平山」を「ゲッタークンの森」と呼んでいる)

テーマ	基本プラン
環境 プログラム	ファイヤープラン ネイチャープラン
宿泊体験 プログラム	チャレンジキャンププラン フレンドリープラン
福祉・健康 プログラム	ウォーキングプラン ボランティアプラン
地域 プログラム	タイムスリッププラン マイ・ゲッタープラン

本年度、「総合的な学習の時間」の一環としてして取り組んだ小・中学校は、1学期に18団体、2学期に15団体(10月末現在)あった。

内容的には、ファイヤープラン(火おこし体験後に、その火をランプにともしてナイトハイキングや野外炊事を行うもの)、ネイチャープラン(バードコールづくりやネイチャービンゴ、自然観察ゲームを組み合わせたもの)、タイムスリッププラン(大中寺の七不思議見学を取り入れたもの)、マイ・ゲッタープラン(子どもたちの興味・関心に沿ってグループで課題別に調べるもの)などを多くの学校で活用していただいた。

平成14年度の新学習指導要領の完全実施を目的に、「総合的な学習」のプログラムの一層の整備を図るため、現在、全活動プログラムを見直して『活動プログラム集～ゲッタークンの森で総合的な学習を！～』を作成するための作業を進めている。また、多

様な学習に対応できるプログラム素材を開発中である。これからも、より多くの学校に活用していただき、ともに「総合的な学習」に取り組んでいきたいと考えている。

### 【高原山少年自然の家】

#### 感動の共有「セカンドスクール」

子どもたちが1週間毎日書き続けた「和綴ノート」の最後には、だれもが「セカンドのことは一生忘れない。」と書いてあるが、本当にそうかもしれないと思う。(小学校教諭の感想から)

毎年、高原山少年自然の家に6泊7日宿泊し、さまざまな体験学習をしている江戸川区立鹿本小学校の「総合的な学習の時間」での活動の一部を紹介する。

なだらかな起伏の草原の育祭地で・・・

草原に寝転ぶ子、坂を駆け下りる子、みんなで声をそろえると、山びこが返ってくる。友だちの名前を呼んだり、何度も繰り返し声を響かせた。

マスカみとマス焼き。そして、食す・・・

沢の冷たさも忘れてマスを追う。捕まえても逃がしても歓声があき起こる。捕まえたマスは、自分たちでさばいて焼く。はじめは気味悪がっていた子どもたちもすぐにさばき始める。焼き上がったマスを食べる子どもたちの表情は満足そう。

自由時間に子どもたちは・・・

あけびとりやバードウォッチングに出かける子、リアル隅田川(炊事場の排水)の工事に出かける子、丸太の輪切りに挑戦する子、それぞれの時間を過ごしていた。

トラブル発生・・・

友だちに無視されたと、泣いて訴える女児がいた。その子を心配して、ぞくぞくと女の子が集まってきた。始めは叫びあっていた子たちも、周りの仲間からの言葉に、次第に気持ちを和らげていく。涙ながらに、友だちのよさを認め合う事の大切さを呼びかける子の懸命さに強く心を打たれた。

親からの手紙に子どもたちは・・・

5日目の夜、一人一人の親からの手紙を手渡す。おもいおもいの場所で読み始めると、静かな部屋の中で、鼻をすする音が聞こえてくる。

離れても 母のぬくもり 頼つたう

テレビもない。ゲームもない。教科書もない。あるのは大自然と友だちと先生。子どもたちは、自然の中にいて、人と人と接する喜びを身をもって体験できたと思う。沢山の感動をみんなで共有できたことは、なによりも子どもたちの宝物になったであろうし、これからの生きていく力になると信じている。

### 【南那須少年自然の家】

～今が旬！体験学習の宝庫～

事例「総合的な学習の時間で大活躍！」

#### 1 小学校の利用

《A小学校4年生～1泊2日～》

宿泊学習での活動を児童が考え、学習テーマ「福祉」の発展内容として、点字や手話、車椅子等を利用した、名付けて「福祉ネイチャーゲーム」を自然豊かな四季の森に児童が準備をして実施した。

《B小学校3・4年生～日帰り～》

学習テーマ「花も緑もみんな友だち」の導入として、自然の家の「総合的な学習の時間関連プログラム」の「四季の森であそぼう」「四季の森を探検しよう」を、自然の家職員とともに実施した。

《C小学校3・4年生～出前講座～》

自然の家の職員を総合的な学習の時間の地域人材ボランティアに依頼し、出前講座制度を利用。自然の家職員が、「土について調べよう」という課題をもった児童を担当し課題解決の支援を行った。

#### 2 中学校の利用

《A中学校2年生～2泊3日～》

生徒の興味関心に応じた10の選択学習を準備して、近くの県の施設(南那須育成牧場)を利用したり、自然の家の施設ボランティアの協力も得たりしながら行った。炊事活動も選択活動として実施した。

#### 3 教職員の利用

《A小学校教職員～現職教育～》

「学校林を効果的に利用して、総合的な学習の時間等を展開するにはどうしたらよいか」という研修テーマに基づき、自然の家職員と話し合ったりアウトドアゲームやネイチャーゲームを体験したりした。

「体験学習の宝庫～南那須少年自然の家～」

「もう一つの教科書・もう一人の先生・もう一つの教室」を合言葉に、「ゆとりのある生活体験・社会体験」「豊かな自然を生かした自然体験」を提供するため、数多くのアクティビティ(野外活動・炊事活動・自然に親しむ活動・ふれあい活動・創作活動)を用意し、団体のねらいやニーズに応じてプログラム化を図り、総合的な学習の時間や教科学習に関わる体験的な学習が効果的に実施できるよう支援している。

### 【今市少年自然の家】

#### 疑似体験活動について

今市少年自然の家では、総合的な学習の時間を取り入れるにあたって、国際理解、情報、環境、福祉・健康、生活、地域・社会、自然の7つの視点を設定し、学校利用への積極的な働きかけや援助指導を展開しているところだが、その中の一つ福祉・健康について紹介する。

まず、本所では、福祉・健康について、自分や家族の健康や安全への意識の高揚、また、ボランティア体験をとおして、高齢化社会に対する理解やさまざまな福祉環境の意識を高めることをねらいとして

いる。

活動内容については、本所が事前に、介護研修センターに取り次ぎ、借用した高齢者疑似体験用具(未来ちゃん)と、本所で準備したアイマスクを利用して、疑似体験を実施している。

実施に当たっては、高齢者疑似体験用具(未来ちゃん)を装着して、歩行体験、階段の昇り降りや、碁石並べまた、アイマスクをして、歩行体験等を約2時間かけて実施している。

なお、未来ちゃん装着に当たっては、介護研修センターで、未来ちゃん装着講習を受講者が同席することで事故防止に努めている。

疑似体験活動に参加した小学校6年生の反応は、「お年寄りって大変だ」「将来への不安、重い、つらい、苦しい」と実感し、また、「お年寄りの体の不自由さがわかり、今までの自分の考えの甘さを痛感した」「介護の大切さがわかった」「体の不自由な人にとって、便利な施設・設備の重要性を感じた」など答えている。

以上のことから高齢者や視覚障害者の生活の様子を疑似体験することにより高齢者や障害者へのいたわりの気持ちを学び取れたことは大きな収穫であった。



【とちぎ海浜自然の家】

とちぎ海浜自然の家は、太平洋(鹿島灘)の広大な自然環境の中にある。子どもたちに「海」という大自然に触れ、体験する機会と場を提供している。当所ならではの活動として、「なぎさ活動」「塩づくり」「砂浜活動」「砂の造形」「海の生物観察」など海をテーマとした活動を行うことができる。

当所では、特に総合的な学習を意識して、そのプログラムに沿えるよう様々な活動を準備している。

そのひとつの例として「海産物調理」を紹介する。

季節は10月から3月に限り、低温で空気が乾燥している気候条件を利用する。地元の漁業協同組合のボランティアの方を講師に招き、茨城近海のサンマを使い干物・つまれ・マリネなどの調理を行う。

干物づくりは、約2時間程度の活動で、魚のうるこやはらわたを取ったり、背開きや腹開きをしたり、2枚、3枚おろしをやってみたりなど、貴重な体験ができる。

「海産物調理」は、「海の産業」をテーマに学習するのにふさわしい活動といえる。その理由として、1 海の近くでの産業や人々の仕事様子を調べたり体験することができる。

2 ボランティアの方々の様子を見聞きし、ボランティアの在り方を学習することができる。

3 干物づくりの体験をとおして、海が育む生命の人間への恩恵に気づくことができる。

などがあげられる。

他の活動についても各学校でのテーマで学習展開をしてみてもどうかと思う。



おわりに

今回は、各青少年教育施設における「総合的な学習の時間」への取り組みを中心に紹介しました。周知のとおり、これからの教育は「ゆとり」の中で「生きる力」を育成することが必要とされています。そのためには、学校内ばかりでなく、家庭や地域社会が十分に連携し、バランス良く教育に当たることが大切です。また、学校はより一層「開かれた学校づくり」に努めるとともに、「総合的な学習の時間」において、地域の教育力を生かす工夫をしたり、青少年教育施設等の利用を進めるなど、いかに地域社会と関わられるのかがひとつのポイントとなってくると思われます。

今後、子どもたちと社会全体に「ゆとり」を持たせ、「生きる力」の育成を重視した教育を進めるためには、自然体験や社会体験などの体験活動の機会を広げていくことが大切であり、より積極的に取り組んでいく必要があります。

ティータイム

アンディ・ウォーホルについて

嘗てアートは人々に、感動や夢などを与え、心を癒してくれるモノだった。アメリカ現代美術の巨人、ポップアートのアンディ・ウォーホルが現れるまでは...。「1960年代のアメリカの資本主義社会の有り様を反映し、大量生産の手法によって崇高な芸術と大衆文化の垣根を壊した作家」として美術史に名前を残すだるう彼のことが最近、気になっている。

大抵、自分の理解の範疇を超えた作品を前にした時「何が描いてあるかわからない」と言う。その点、彼の作品は明確だ。マリリン・モンローやキャンベル社のスープの缶詰など、誰もが知っているモノをスーパーマーケットの陳列棚のように無機質に並べただけの作品だ。しかし、私たちが芸術作品に期待している「豊かさ」は微塵も感じられない。

戦後、モノをつくり大量に消費することで、右肩上がりに経済は成長し豊かな生活をしてきた。経済が頭打ちになっているので、さらに大量の消費が求められている。21世紀にはもっと「豊かな」生活がしたいものだ。97年の映画「バスキア」にはデビット・ボウイがウォーホル役で出演している。